

パプアニューギニア陸上鉱区におけるガス・コンデンセートの発見について

1. 当社(本社:東京都港区虎ノ門二丁目、社長:松下功夫)は、子会社のジャパンエナジー石油開発株式会社(本社:東京都港区赤坂一丁目、社長:森田憲司)が出資するマーレイ石油株式会社(本社:東京都港区赤坂一丁目、社長:森田憲司)を通じて、パプアニューギニア陸上鉱区「PPL190」において石油探鉱を実施しておりますが、このたび、試掘井「Cobra-1A」において、ガス・コンデンセートの存在を確認しました。
2. 本試掘では、目的層とした砂岩層が厚さ34メートルにわたって炭化水素を含有することを確認し、同層よりガス・コンデンセートを回収いたしました。
3. また、本試掘により、上記砂岩層は北北東方向へ上向きに傾斜していることが判明しました。このことから、同方向に砂岩層の質・厚さともにガスの存在に好条件となる可能性もあるため、ガスの存在する範囲がさらに広がることが期待されます。今後は、本試掘で得られたデータを解析し、商業性の有無を確認するための探鉱・評価作業計画について検討していくこととなります。
4. なお、本試掘井は、当社関係会社のサザンハイランド石油開発株式会社が原油を生産している「SE Gobe油田」の東13kmに位置しております。

● (ご参考)PPL190鉱区の権益保有者

マーレイ石油株式会社:26.497%

Oil Search Limited(オペレーター):62.556%

Cue PNG Oil Company:10.947%

以上

● 【添付資料】

 [本文中記載関係会社の概要、PPL190鉱区の概要・鉱区位置図](#) (PDF:328KB)